

Winnyユーザー309人に聞く 情報漏えい事件・事故後の本音

鈴木 直美 ●フリーライター

35.0%のユーザーが漏えい対策にWinnyを削除 ユーザーは安全なファイル共有ソフトを熱望

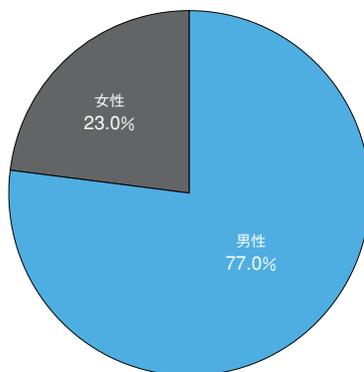
ひと頃はもっぱら著作権問題で槍玉にあげられていたファイル共有ソフトが、2005年度は情報漏えいという新たな問題でマスコミににぎわせた。ウイルス感染がもたらした一連の情報漏えい問題は「Winny流出」などといわれ、各方面からWinnyの自粛や規制を呼びかける声も次々に上がった。そんな渦中において、当のWinnyユーザーたちは、それらをどのように受け止めたのだろうか。本書『インターネット白書2006』では、アンケート調査を通して、Winnyユーザーの本音を聞いてみることにした。

調査は、ネットリサーチ会社マクロミルのリサーチモニターから、Winnyを利用している、あるいは過去に利用していた経験のあるユーザーを事前調査で抽出し、その後にアンケート形式の本調査を実施した。本調査の実施日にあたる2006年4月13日～14日は、各機関の呼びかけや対策がおおむね出揃った頃。一時の過熱報道はややおさまったものの、Winny報道はまだ連日のように続いており、当該週には米軍三沢基地をはじめとする9件の流出報道が、翌週には、Winnyの危険な脆弱性も公表された。

「Winny」のユーザー意識調査の概要

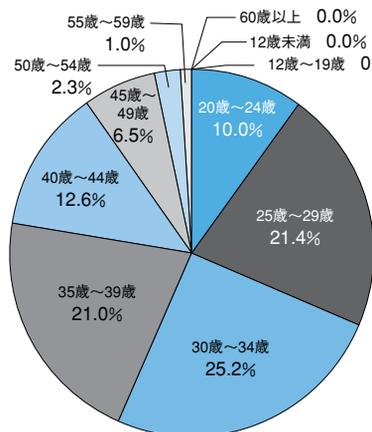
| | |
|-------|------------------|
| 調査方法 | インターネットリサーチ |
| 実施機関 | 株式会社マクロミル |
| 実施期間 | 2006年4月13日～4月14日 |
| 有効回答数 | 309 |

回答者のプロフィール 性別 N=309



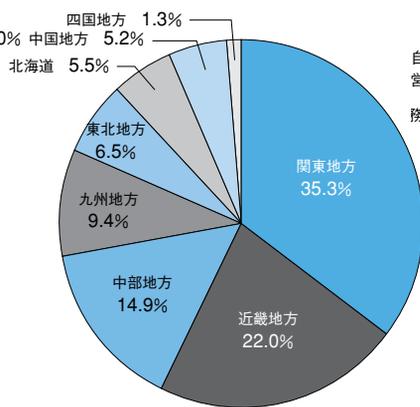
©impress R&D,2006

回答者のプロフィール 年代 N=309



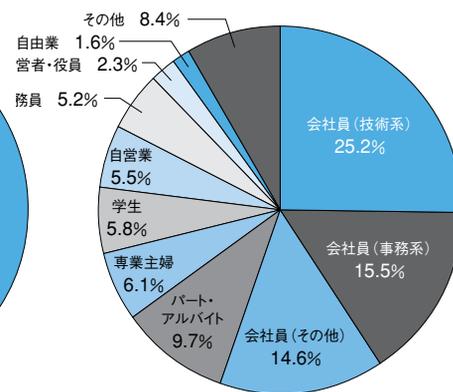
©impress R&D,2006

回答者のプロフィール 地域 N=309



©impress R&D,2006

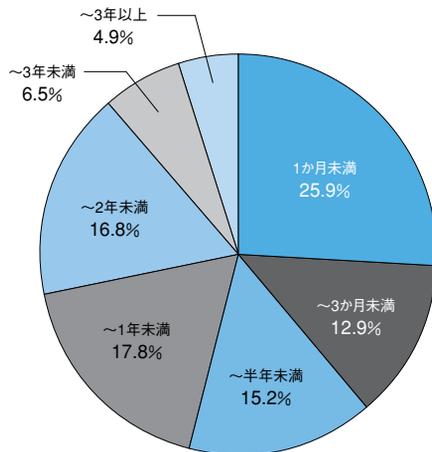
回答者のプロフィール 職業 N=309



©impress R&D,2006

78%のユーザーが報道以降はWinny利用せず

資料6-5-4 Winny利用歴 N=309



©impress R&D,2006

資料6-5-5 情報漏えい報道以降のWinny利用状況 N=309

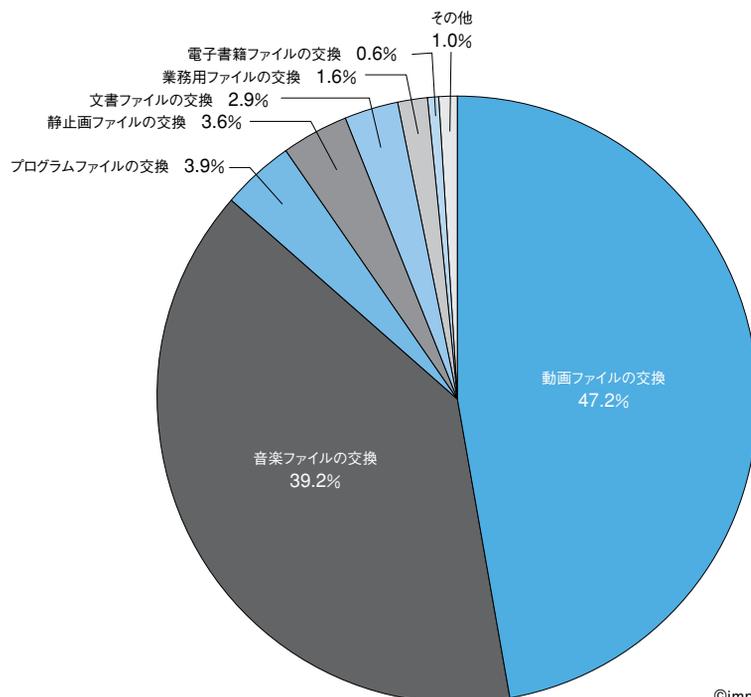


©impress R&D, 2006

Winnyユーザーの過半数は、半年未満のユーザーが占める。情報漏えい報道以降のWinny利用状況は、利用していない（報道以前の利用中止も含む）ユーザー78.0%（241人）に対し、22.0%（68人）はその後も利用。利用していないユーザーのうち36.6%（88人）はすぐにも、あるいは対策が万全になったらまた使いたいと答えており、継続利用者を含む50.4%がWinnyの利用を希望。34.0%（82人）は、もう使いたくないとしている。

主な利用目的は動画ファイルと音楽ファイルの交換

資料6-5-6 Winnyで最も使用頻度の高い用途 N=309



©impress R&D,2006

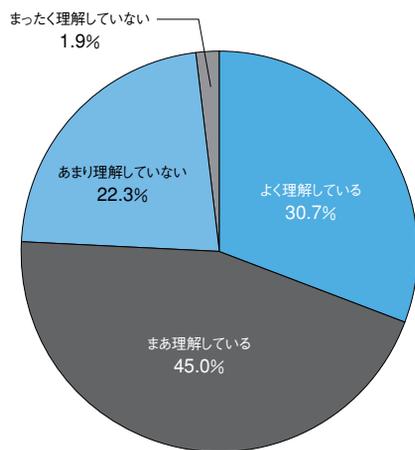
Winnyで最も使用頻度の高い用途を1つ選んでもらったところ、動画ファイルの交換（47.2%：146人）と、続く音楽ファイルの交換（39.2%：121人）で全体の86.4%を占めた。ファイル共有ソフトでやり取りされているこれらジャンルのファイルは、その多くが権利者に無断で公開されているものと言われており、改めてその実態が明らかになった形だ。

Winnyユーザー309人に聞く 情報漏えい事件・事故後の本音

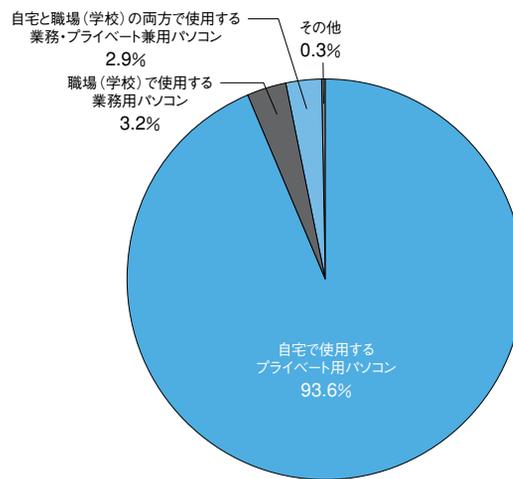
利用場所は自宅が9割、情報漏えいメカニズムは4分の3が理解

資料6-5-7 Winnyインストールパソコンからのウイルス
による情報漏えいメカニズムの理解度 N=309

資料6-5-8 Winnyインストールパソコンの利用場所
N=309



©impress R&D,2006



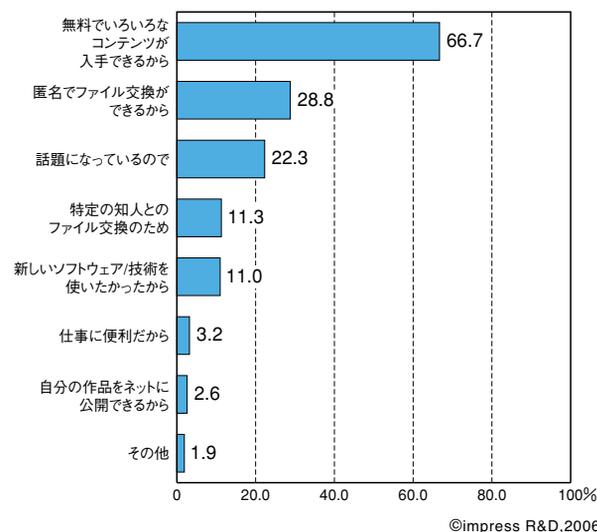
©impress R&D,2006

Winnyのウイルス感染による情報漏えいのメカニズムは、よく理解している(30.7%:95人) まあ理解している(45.0%:139人)を合わせたWinnyユーザーの75.7%が一応の理解を示しているも、残る4分の1には、報道後においてもあまり浸透していない。Winnyの利用場所は、93.5%(289人)が自宅の私用パソコンと答えており、実際に流出事故につながったパソコンの種別(「資料6-5-2 流出元パソコンの種別」)と同様の傾向を示している。

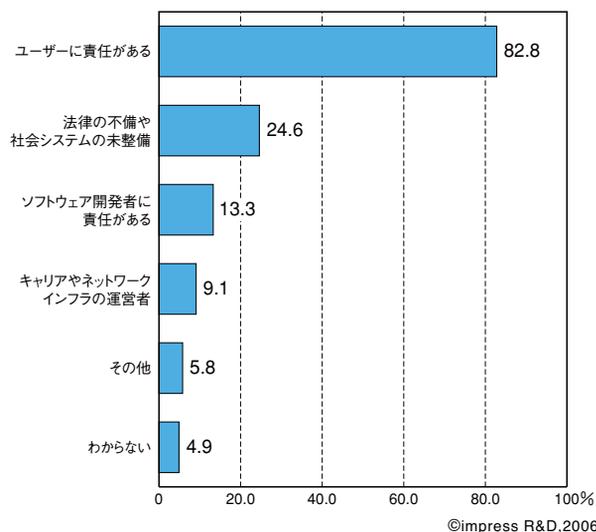
情報漏えい事故・事件の責任はユーザー自身

資料6-5-9 Winnyを利用開始した理由(複数回答)
N=309

資料6-5-10 Winnyのウイルスによる情報漏えい事件・
事故の責任(複数回答) N=309



©impress R&D,2006



©impress R&D,2006

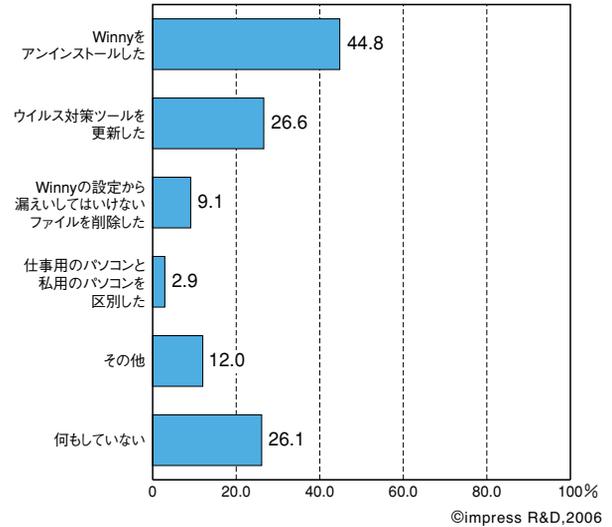
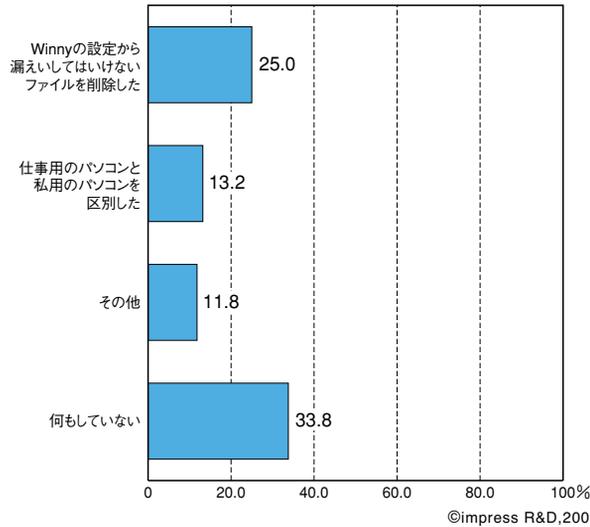
Winnyを使い始めた動機には、66.7%(206人)のWinnyユーザーが「無料でいろいろなコンテンツが入手できるから」という理由を挙げている。ウイルス感染による情報漏えいには、82.8%(256人)がユーザーに責任があるとする一方、法律や社会の不備(24.6%:76人)、ソフトウェア開発者(13.3%:41人)を挙げるユーザーも少なくない。なお、その他と答えた18人のうち11人は、ウイルスの開発者を挙げている。

Winnieユーザー309人に聞く 情報漏えい事件・事故後の本音

Winnieユーザーの3割が発覚後にアンインストール、継続利用者の3割は対策せず

資料6-5-11 情報漏えい発覚後も継続利用したユーザーの情報漏えい発覚後の対策（複数回答） N=68

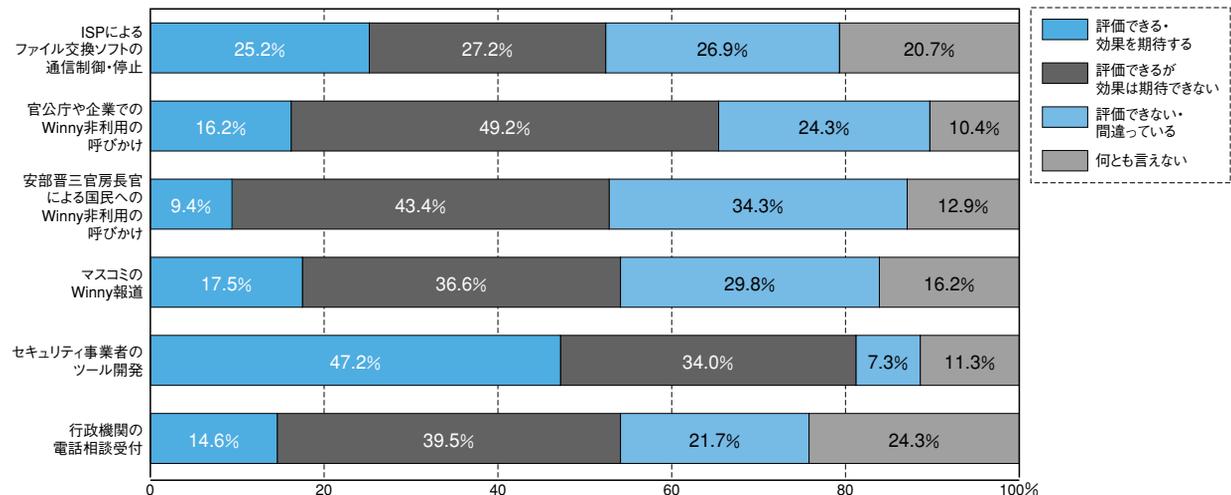
資料6-5-12 情報漏えい発覚後に利用中止したユーザーの情報漏えい発覚後の対策（複数回答） N=241



情報漏えい発覚以降もWinnieを利用している68名と利用していない241名それぞれに、発覚後とった対策を答えてもらった。非利用者の44.8%、全体の35.0%にあたる108人は、発覚を契機にWinnieをアンインストール。利用者側では、ウイルス対策ツールの更新などの対策をとる一方で、33.8%（23人）は何もしないまま利用を継続。利用者側のその他には、対策済み、専用パソコンの使用といった回答が含まれている。

ツール開発が評価を集めるも、ほかは期待薄

資料6-5-13 Winnieによる情報漏えい発覚後の各機関対応への評価 N=309

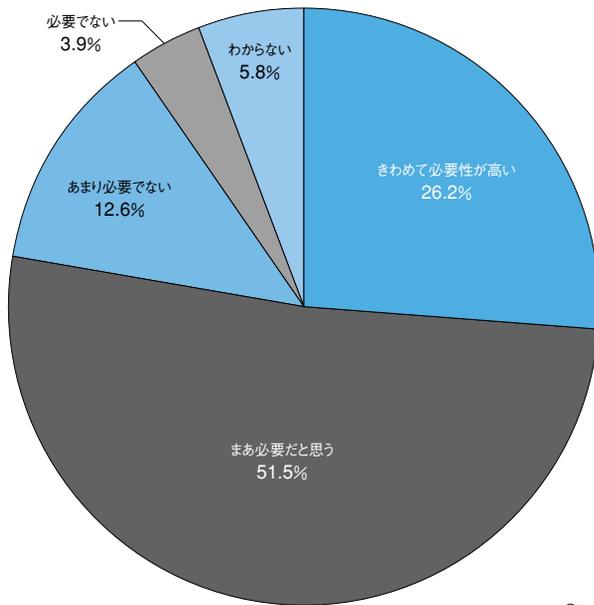


情報漏えい発覚後に各機関がとった対応に対する評価を答えてもらった。評価が高かったのは、セキュリティ事業者によるウイルスやWinnieの検出・削除を行うツールの開発。81.2%（251人）が評価し、47.2%（146人）は効果も期待している。ほかの対応に関しては、ある程度の評価を集めているものもあるが、効果への期待度はいずれも低く、逆に反発を感じるユーザーが増えている。

Winnyユーザー309人に聞く 情報漏えい事件・事故後の本音

ニーズの高いファイル共有ソフト

資料6-5-14 Winnyを含めたファイル共有ソフトの必要有無 N=309



©impress R&D,2006

Winnyを含めたファイル共有ソフトについては、77.7%（240人）のユーザーが「必要」と回答。全般的には、ピア・ツー・ピアによるユーザー同士の情報交換という仕組みに、ウェブを代表とする現行のサービスとは異なる利便性を感じているようだ。しばしば問題となる著作権などに関しては、不正使用の排除を前提とした普及を望む声がある一方、権利をないがしろにする発言もあり、技術やサービスとは別次元での議論の余地が残る。

「ファイル共有ソフトが必要だと思う理由」自由回答より

資料6-5-14でファイル共有ソフトが「必要だ」と回答した人にその理由を自由に書いてもらったところ、以下の意見が寄せられた。

「情報は皆で共有したほうがいいため。」（33歳男性）、「ファイルの交換程度だったら問題ない。安月給とりにはDVDやCDの金額が高すぎる。」（36歳男性）、「ファイル共有が良い方向で使われれば、間違いなく素晴らしいネット社会が成り立つと思う。」（34歳女性）、「どんな技術であれ、否定すべきではない。特定サーバーに依存しないネットワークは情報保持の堅牢性が高いと思う。」（33歳男性）、「貧乏人の味方だと思う。不

景気を作り出し、操作している政府が諸悪の元だと思う。」（20歳女性）、「ウイルスや著作権などの問題は軽視できないが、ファイル共有としての機能はよいと思う。技術そのものを問題視することは間違っていると思う。」（27歳男性）、「ファイルの共有は、インターネットだからこそ可能なものであるから。」（34歳男性）、「海外で放送されているドラマがリアルタイムで見ることができるため。日本でDVDレンタルが開始されるのが遅すぎる。日本のドラマでも見逃した回があったときにその回だけダウンロードしてみることができるので、テレビ局側も視聴率アップになるし良い

のではないか。」（42歳男性）、「たとえば、CD、DVDといったものを購入しようと思った場合、どういうものかわからずに買ってしまって気に入らないときがあるので、それを防ぐ意味でも必要。本を立ち読みして気に入ったら買うのと同じことだと思う。」（42歳男性）、「メリット・デメリットを考慮して使用すべきだと思うが、ネットコミュニケーション機能を持つPtoPソフトとして、Winnyの有効性は評価されるべきだと思う。」（26歳女性）、「Winnyは道具として使われただけ。Winnyを悪者扱っているマスコミが騒ぎ過ぎ。」（34歳男性）



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp